

この箇所から祈りについての3つのチャレンジを学びます。

### I「困難な時こそ神を呼べ」というチャレンジ

エレミヤはこの時牢獄に囚われていました。神のスポークスマンとして忠実に神に仕えていたにも関わらず、エレミヤの立場は危うくなりました。しかし、神は 31:3 でこう言われました。「わたしを呼べ」と。エレミヤに語られた神は、こんにちに生きる私たちにも同じように「他の誰でもない。わたしを呼べと力強く語り掛けてくださるのです。

### II「知性をもって神を呼べ」というチャレンジ

神とはそういう方であるかを私たちは聖書を通して知っているでしょうか？ 確信を持って神に助けを求めるには、その方を良く知る必要があります。2 節では「地を造った主、それを形造って固く立てた主、その名が主であられる方が言われる。」と神について語られています。神への信頼がこの説明によって増したことは言うまでもないでしょう。神は実に無から有を生じさせる創造主であり、ご自身のみこころに従って事を成し遂げる全能の神であるのです。

### III「期待をもって神を呼べ」というチャレンジ

確信をもって神に助けを呼び求める者に対して、3節で神は約束を与えています。それは「わたしは、あなたに答える」という約束です。更に「わたしは、あなたの知らない、理解を超えた大いなることをあなたに告げよう。」と続けられました。理解を超えた大いなる事とは、ここではユダに対する将来の計画を指します。将来の事を明かすことが出来るのは神のみです。私たちの将来に対しても、神は大いなるチャレンジを与えていてくださいます。神を信仰を持って呼ぶ者には、必ず私たちの知らない理解を超えた大いなることを告げると約束してくださいました。

どんな時にも、神に目を注ぎ神を呼び求めましょう。個人的にも、教会としてもコロナによって閉じられた門を開いていただけるように神を呼び求めましょう。